



かながわ露頭まっぷ ～洒水の滝～
小田原 啓（神奈川県温泉地学研究所）

■はじめに

山北町平山には、かながわの景勝 50 選、名水百選、日本の滝百選、かながわ未来遺産 100 に選定された名瀑「洒水の滝(じゃすいのたき)」(写真 1) があります。洒水の滝は、酒匂川の支流の滝沢川にあり、下流側から一の滝(落差 69m)、二の滝(落差 16m)、三の滝(落差 29m)で構成されていますが、今回見るの

は一の滝です。洒水(じゃすい)とは、仏教用語で浄水を散らして身を清め道場を清める行為のことや、清める際に注ぐ香水のことを指すと言われています。よく「酒(しゅ)」と間違われますが、正しくはつくりが西の「洒」です。鎌倉時代の僧文覚が滝行を積んだ地とも伝わっており、周辺にはその名残をいくつか見ることができます。今回はこの洒水の滝

の地学的背景をご説明したいと思います。

■アクセス

洒水の滝入口(表題の写真)までは、JR 御殿場線山北駅より約 2.1km(徒歩約 30 分)あります。平日の早朝および夕方の登下校の時間帯のみ山北町内循環バス(地域のコミュニティバス)が運行しており、洒水

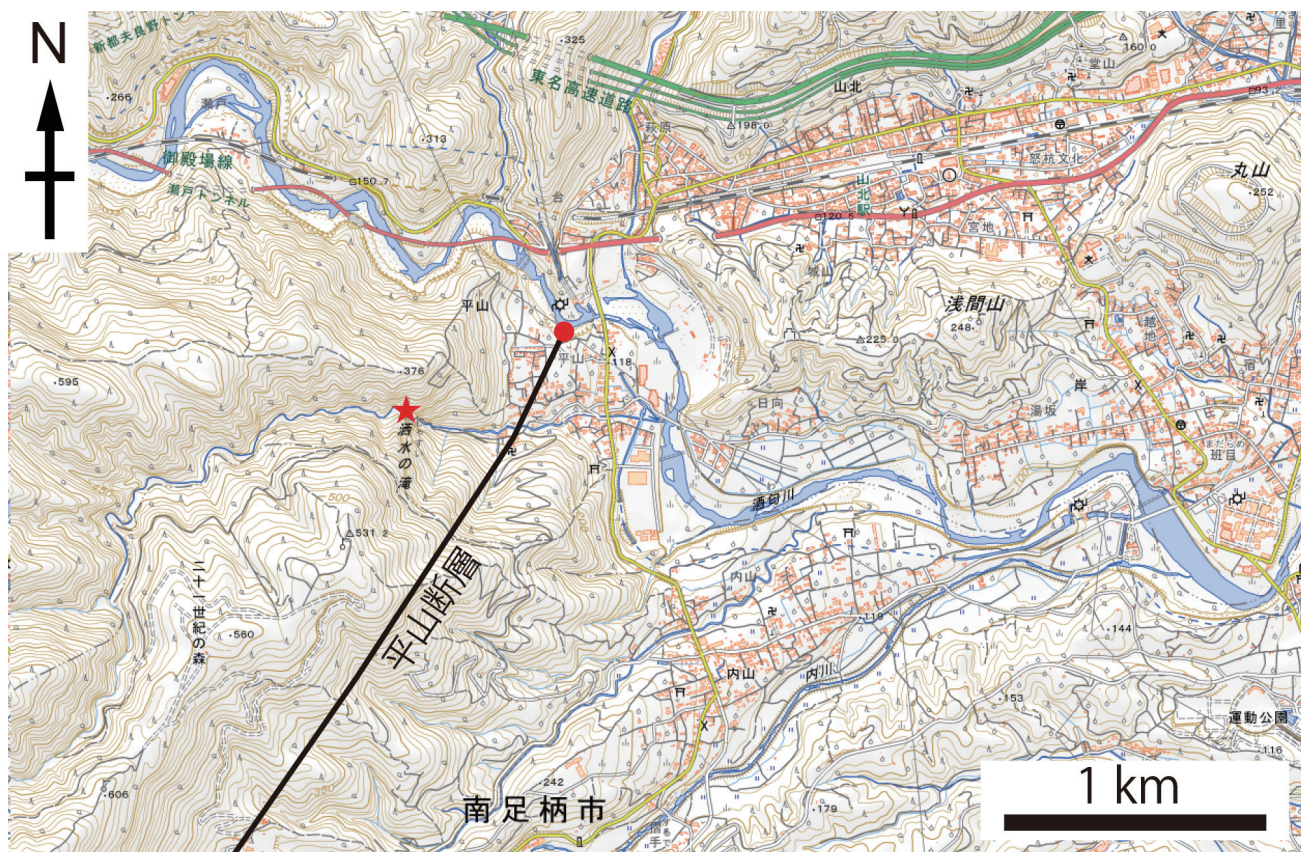


図 1 洒水の滝周辺の地形図。★印は洒水の滝、●印は平山断層露頭の位置。地理院地図 (<https://maps.gsi.go.jp/>) に加筆。



の滝の最寄りのバス停は「平山」となりますが、運行日時と本数が限られているため観光に利用するには不向きです。自家用車を利用する場合、洒水の滝入口に十数台分の町営無料駐車場があります。またハイシーズンには近隣に有料駐車場が開設されることもあります。

■洒水の滝

場所：山北町平山（図1の★印）

北緯 35 度 21 分 8.79 秒

東経 139 度 3 分 41.62 秒

洒水の滝入口から遊歩道を 5 分ほど歩いていくと、観瀑台の上り口にたどり着きます。そこを通り過ぎて滝のほうに向かうと、朱塗りの橋が見えてきます（写真2）。途中、遊歩道脇の崖からいたるところに湧水が見られます（写真3）。以前は朱塗りの橋から先にも遊歩道が続きましたが、現在では崩落により近づくことが出来ません。令和4年に大規模な観瀑台（写真4）が設置され、そこから滝の全貌（写真1）を観察することができます。観瀑台の階段は 226 段ありますので、ご自身の体力に合わせて登りましょう。

洒水の滝は酒匂川の支流滝沢川を流れ落ちる前述の通り 3 段の滝から構成されていますが、ここから見えるのは最下流で最も落差の大きい一の滝です。滝の面に見える地層は、足柄層群瀬戸層の礫岩、砂岩、シルト岩からなり、これらが積み重なってできる層理（地層の縞模様）が見られます（写真5）。滝壺に近づくことができないため、地層を間近に観察することができませんが、観瀑台の脇などに礫岩層を見ることができます（写真6）。足柄層群瀬戸層は、およそ 170 ～ 180 万年前、まだ伊

←写真1 洒水の滝（一の滝）全景



写真2 洒水の滝と朱塗りの橋



写真3 湧水



写真4 観瀑台



写真5 滝壺付近にみられる、層理の発達する足柄層群瀬戸層



写真6 観瀑台脇の足柄層群瀬戸層の露头

豆半島が本州と衝突する前に伊豆と本州との間にあった海に流れ込んだ土砂が堆積してできたものと考えられています。

■平山断層

観測だより第59号のかながわ露头マップでは、平山断層の模式露头（図1の●印）をご紹介しました。平山断層は、山北町平山付近を北端とし、南足柄市地藏堂付近を経て箱根北麓を通過する、走向が北東―南西方向、傾斜が約60°で北西に落ちる逆断層です。本断層の北端部付近では、上盤（西側）の足柄層群瀬戸層に、下盤（東側）の足柄層群根石層が潜り込んでいます。平山断層の活動によってできた崖に滝が形成され、その滝が長年にわたって水で削られて後退し、現在では断層から約500m上流の位置に洒水の滝が存在しています。

■おわりに

今回は平山断層が造る洒水の滝をご紹介しました。断層が滝を作ること珍しいことではなく、神奈川県内にも例えば夕日の滝（観測だより第60号で紹介）などがあります。今後も断層が造る様々な地形をご紹介していきたいと思います。